

2018年度第1四半期 決算説明会

2018年7月31日
株式会社村田製作所

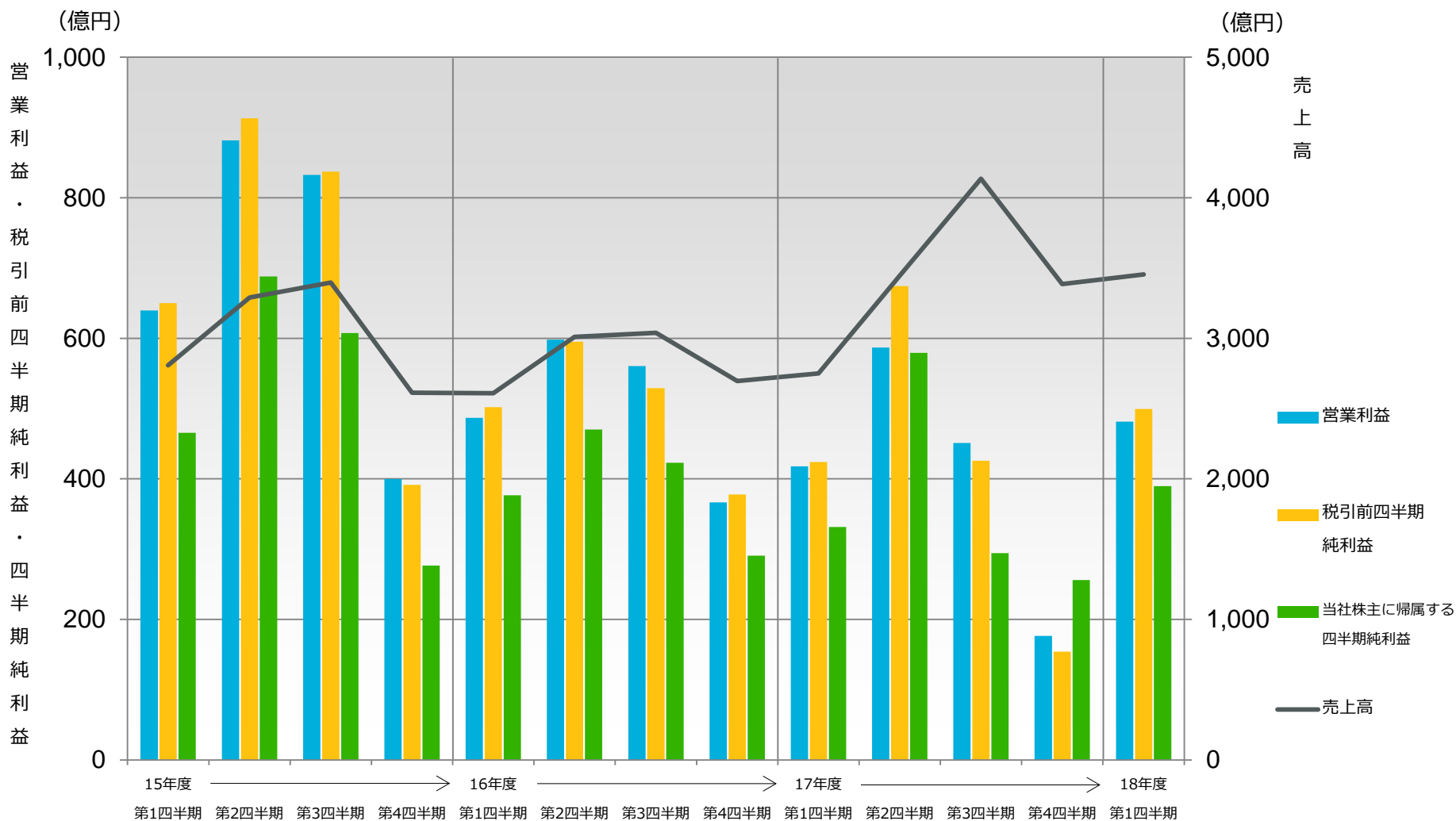


1. 2018年度 第1四半期業績概要

2018年4月～2018年6月
第1四半期連結会計期間

- 売上高はカーエレクトロニクス向け、スマートフォン向けなど幅広い用途でコンデンサを中心にコンポーネント部品が好調に推移したため、計画を上回った。
- 営業利益は為替の円高や新製品の生産拡大に向けた費用の増加はあったものの、コンデンサの需要拡大により、前年同期比15.2%の増加。営業利益率は同比1.3ポイント低下の13.9%。上期の業績予想に対する進捗率は40%。
- 需要が好調なコンデンサやスマートフォンの新モデル立ち上がりに向け受注は順調に推移しており、前年同期比34.5%増加。生産能力の拡大や高い操業は継続しているものの、注残は拡大。

業績推移（四半期）

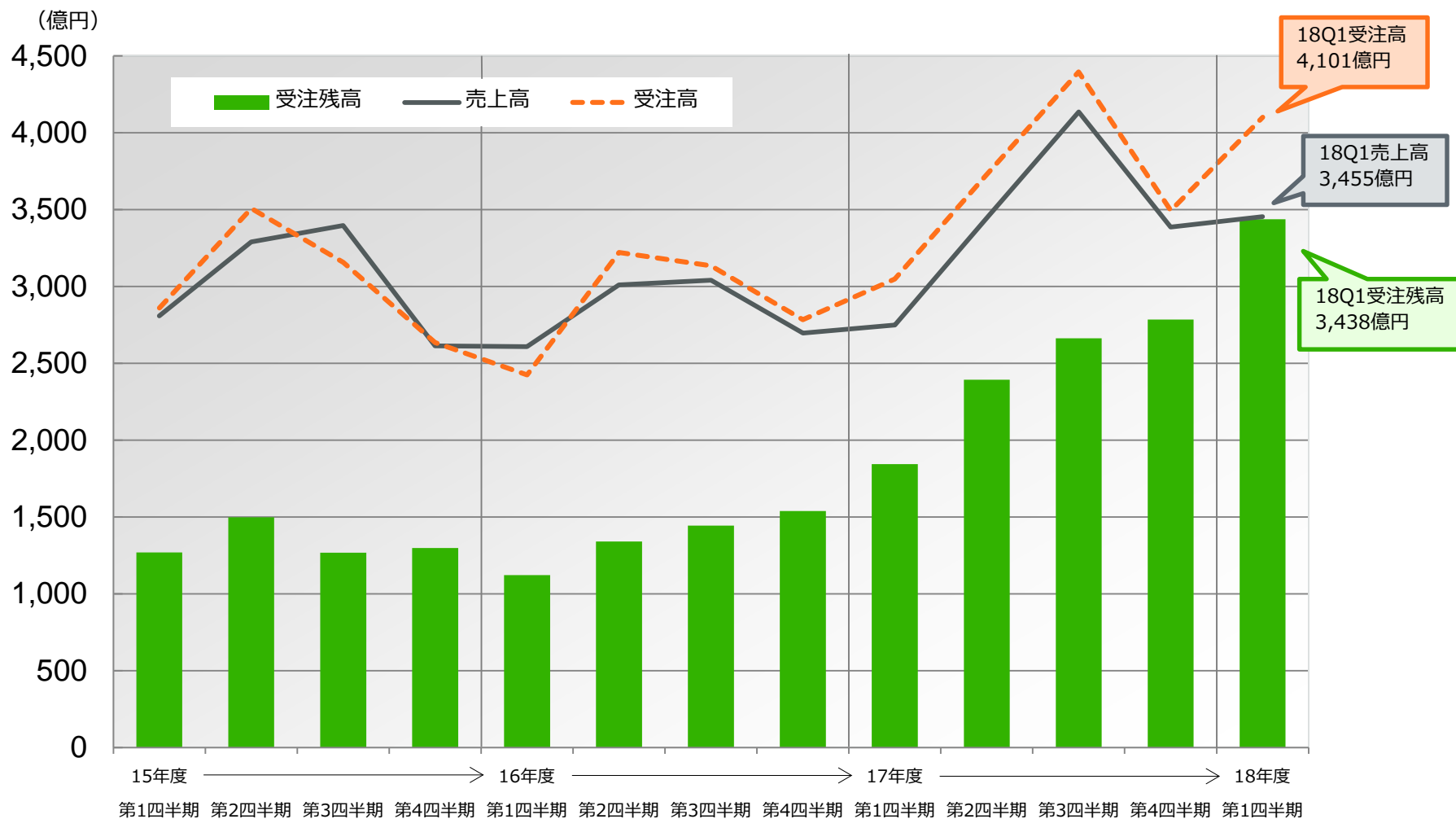


	2017年度 第1四半期		2017年度 第4四半期		2018年度 第1四半期		前年同期比 18Q1/17Q1		直近四半期比 18Q1/17Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	2,750	100.0	3,387	100.0	3,455	100.0	+705	+25.7	+68	+2.0
営業利益※	418	15.2	176	5.2	482	13.9	+64	+15.2	+305	+172.8
税引前四半期純利益	424	15.4	154	4.6	499	14.5	+76	+17.8	+345	+223.8
当社株主に帰属する 四半期純利益	331	12.1	256	7.6	390	11.3	+58	+17.6	+134	+52.3

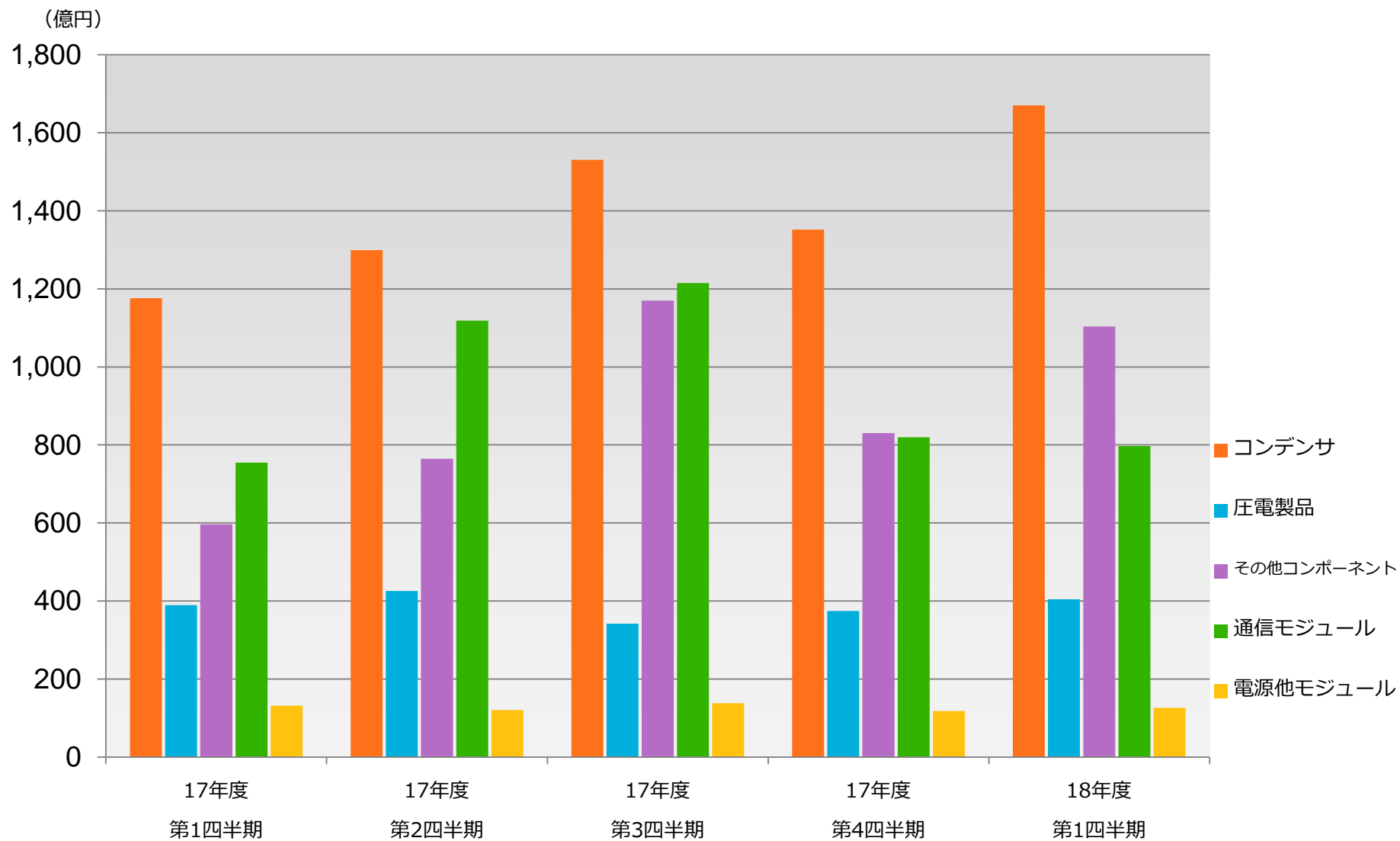
為替 (円/USD)	111.10	108.30	109.07
------------	--------	--------	--------

※退職給付会計基準の変更により、2017年度の営業利益を修正しております。

売上・受注・注残推移（四半期）



製品別受注高推移



製品別売上高

	2017年度 第1四半期		2017年度 第4四半期		2018年度 第1四半期		前年同期比 18Q1/17Q1		直近四半期比 18Q1/17Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	963	35.1	1,139	33.8	1,265	36.7	+302	+31.3	+126	+11.1
圧電製品	375	13.7	346	10.3	381	11.0	+5	+1.4	+34	+9.9
その他コンポーネント	546	19.9	892	26.4	938	27.2	+391	+71.6	+46	+5.2
通信モジュール	737	26.9	878	26.0	752	21.8	+15	+2.0	▲126	▲14.3
電源他モジュール	121	4.4	117	3.5	113	3.3	▲8	▲7.0	▲5	▲3.9
製品売上高計	2,743	100.0	3,372	100.0	3,448	100.0	+705	+25.7	+76	+2.3

製品別売上高概況

[2017年度第4四半期→2018年度第1四半期]

<p>コンデンサ (直近四半期比+11.1%)</p>	<p>○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) スマートフォン向けにおける中国スマートフォンの生産台数増加や、カーエレクトロニクス向けにおける電装化の進展により需要が拡大したほか、PC向けも好調に推移</p>
<p>圧電製品 (直近四半期比+9.9%)</p>	<p>○表面波フィルタ 中国スマートフォンの生産台数増加により好調に推移</p>
<p>その他コンポーネント (直近四半期比+5.2%)</p>	<p>○リチウムイオン二次電池 円筒形が電動工具向けにおいて好調に推移</p> <p>○EMI除去フィルタ カーエレクトロニクス向けで増加</p>
<p>通信モジュール (直近四半期比▲14.3%)</p>	<p>▲近距離無線通信モジュール/通信機器用モジュール スマートフォン向けでハイエンド端末の生産台数減少により、需要低下</p>
<p>電源他モジュール (直近四半期比▲3.9%)</p>	<p>▲電源 OA機器向け、アミューズメント向けで減少</p>

用途別売上高

	2017年度 第1四半期		2017年度 第4四半期		2018年度 第1四半期		前年同期比 18Q1/17Q1		直近四半期比 18Q1/17Q4	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	137	5.0	162	4.8	173	5.0	+36	+26.0	+11	+6.6
通信	1,367	49.8	1,619	48.0	1,574	45.6	+207	+15.1	▲45	▲2.8
コンピュータ及び関連機器	464	16.9	513	15.2	564	16.4	+100	+21.6	+51	+9.9
カーエレクトロニクス	446	16.3	547	16.2	596	17.3	+150	+33.7	+50	+9.1
家電・その他	329	12.0	531	15.7	541	15.7	+212	+64.4	+10	+1.9
製品売上高計	2,743	100.0	3,372	100.0	3,448	100.0	+705	+25.7	+76	+2.3

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

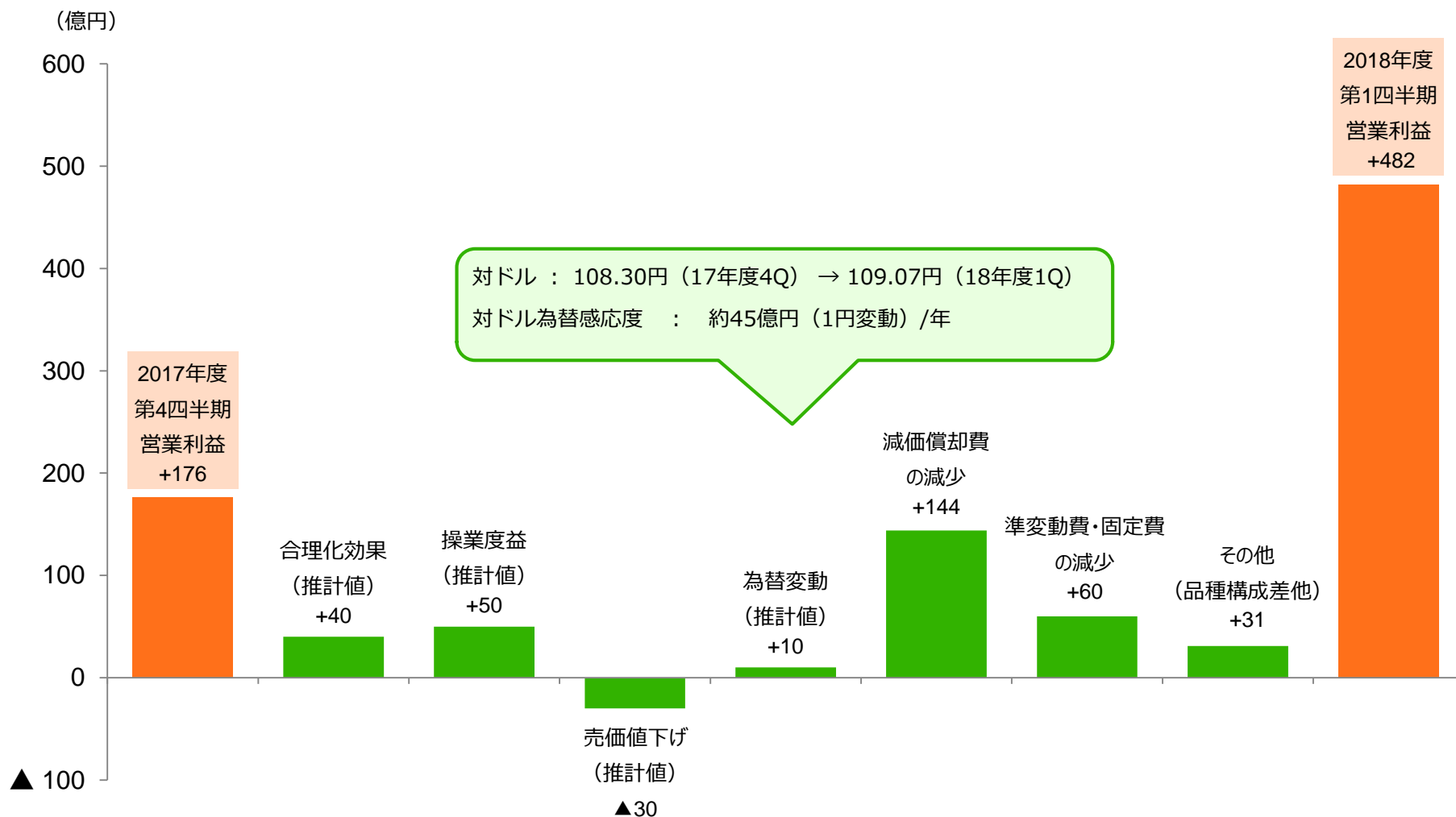
[2017年度第4四半期→2018年度第1四半期]

A V (直近四半期比+ 6. 6%)	○デジタルカメラ向けで近距離無線通信モジュールが増加 ○ゲーム機向けでリチウムイオン二次電池が増加
通信 (直近四半期比▲ 2. 8%)	▲ハイエンドスマートフォンの生産台数減少により、近距離無線通信モジュール、通信機器用モジュール、大容量コンデンサなどが低調に推移 ○中国スマートフォンの生産台数増加により、表面波フィルタ、大容量コンデンサなどが好調に推移
コンピュータ及び関連機器 (直近四半期比+ 9. 9%)	○P C向けで大容量コンデンサやリチウムイオン二次電池などが好調に推移 ○サーバー向けでコンデンサが増加
カーエレクトロニクス (直近四半期比+ 9. 1%)	○電装化の進展により車載用コンデンサが大きく増加 ○E M I 除去フィルタがパワートレイン向けに好調に推移

(注) 当社推計値に基づいております

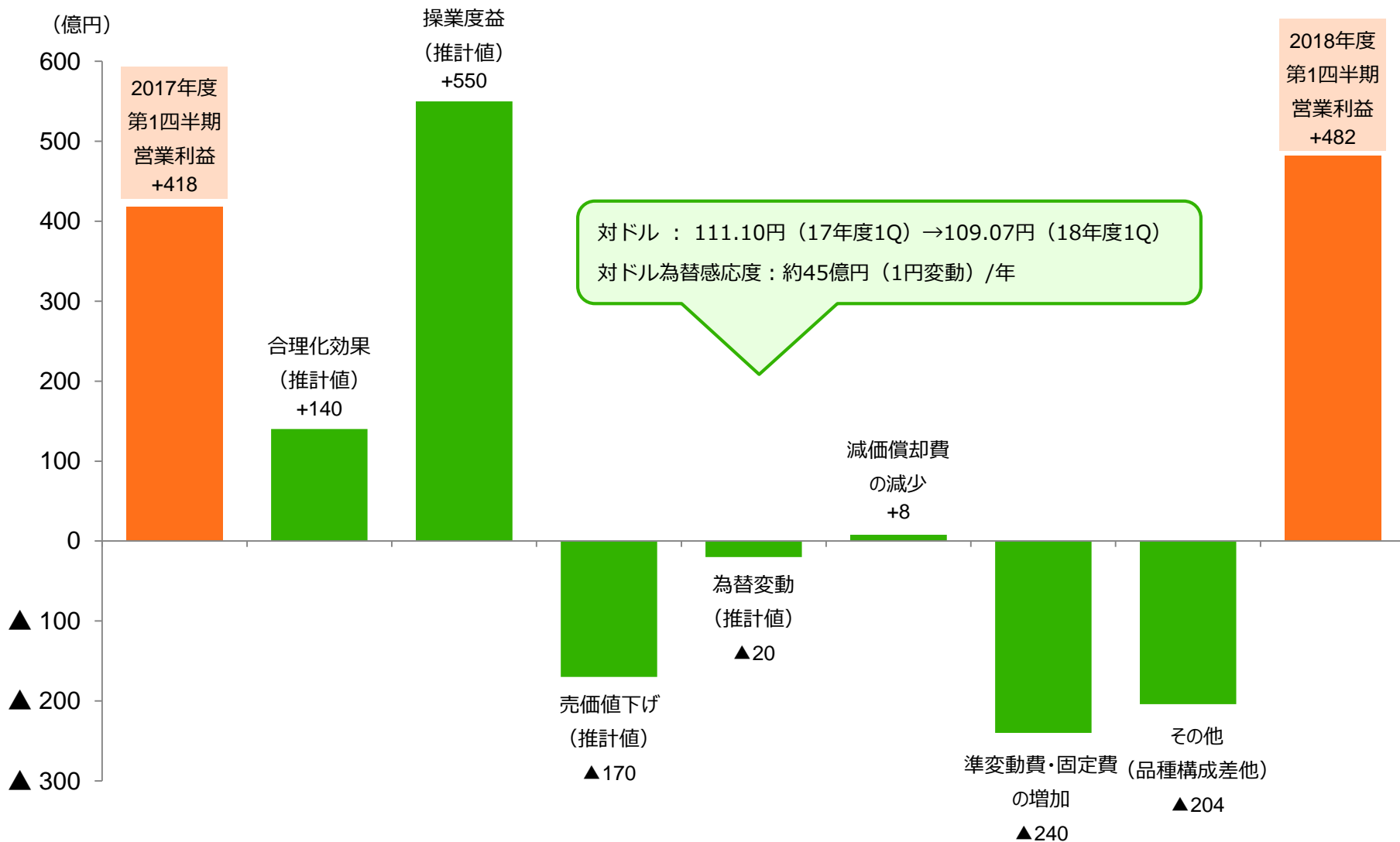
利益変動要因

[2017年度第4四半期→2018年度第1四半期]



利益変動要因

[2017年度第1四半期→2018年度第1四半期]



2. 2018年度 業績予想

(2018年4月～2019年3月)

2018年度 業績予想

	2017年度 実績		2018年度				増減	
			上期予想	下期予想	通期予想			
	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	伸率
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	13,718	100.0	7,530	8,220	15,750	100.0	+2,032	+14.8
営業利益	1,633	11.9	1,190	1,210	2,400	15.2	+767	+47.0
税引前当期純利益	1,678	12.2	1,200	1,220	2,420	15.4	+742	+44.2
当期純利益	1,461	10.6	890	910	1,800	11.4	+339	+23.2
為替 (円/USD)	110.86				105.00			

※ 4月公表値の見直しを行っておりません

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

